

《 時を守り 場を清め 礼を正す 》 凡事徹底！

「時を守り 場を清め 礼を正す」という言葉は教育哲学者の森信三（もりのぶぞう）先生が使われた言葉です。

「時を守る」とは時間や期限を守ることです。具体的に遅刻をしない、時間になったら席に着く、宿題や提出物の期限を守るなどです。これは事前の準備・心構えができていないとできないことですから、これらができるということは、「自立している」ことであり、「相手のことも尊重することができている」こととなります。また、時を守れるということは、やがて人からの信用を積み重ねることにつながり、信頼される人になるということです。



「場を清める」とは、掃除をていねいに精一杯することです。具体的にはゴミが落ちていたら拾う、机やロッカーなど身の回りを整頓する。使った道具や部屋を元どおりに片付けるなどです。これは、次に使う人や一緒に生活を送る人のことを考えて行動するという思いやりの心や感謝の心につながります。またこのことは気づく人になれる、自分自身の心を磨くことにもなります。そして、謙虚さや忍耐力も育っていくこととなります。

「礼を正す」とは、まず大きな声で挨拶や返事ができると言うことです。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「はい」「いいえ」などがしっかり言えることは、相手を大切にすることにつながり、良い人間関係をつくり信頼関係を築くこととなります。また、集会などで集まったときは静かにする。人の話は顔を上げて相手の顔を見てしっかり聞く、廊下は静かに歩くなど、その時、その場においてふさわしい行動がとれることも相手を尊重することにつながります。これも礼を正すということです。



以上のようなことが「時を守り、場を清め、礼を正す」ということです。あらためて、考えてみるとこのことは社会生活を送る上では人として当たり前のことでもあります。しかしながら、人によってはできていないことや十分ではないこともあるかもしれません。自分の行動を振り返りながら、自分自身をより高められるように学校生活を送りたいものです。